

# 連珠っておもしろい

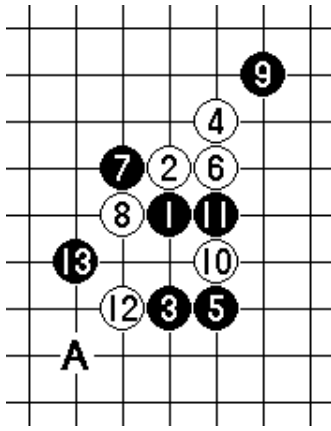
九段 河村典彦

## ●第33回●

### 「へそ」の移動?!

今回は「へそ」の話である。へー、そう?などくだらないだじゃれは置いて、何のことかと言え、瑞星のことである。

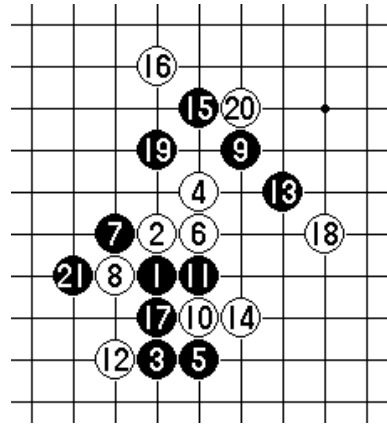
瑞星でAの地点は昔は「瑞星のへそ」と呼ばれており、その地点にどちらが先着できるかが勝敗の分かれ目であった。



これは、明星定石がここに打っていることから急所である事がわかるだろう。ところが、最近はこの位置

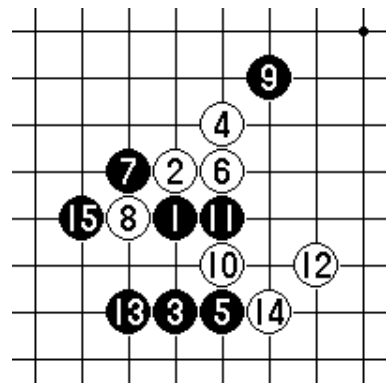
とは違った場所が急所になってきている。

いくつか例を見てみよう。



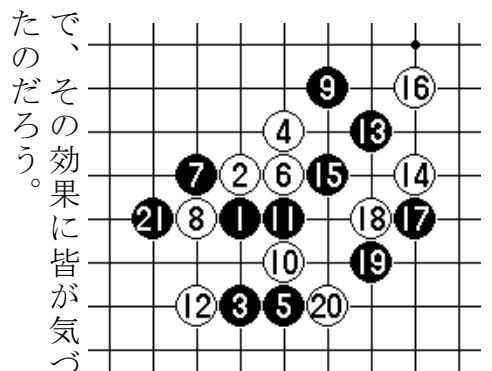
右図は第43期名人戦名人位決定戦第1局の長谷川河村戦である。黒の長谷川氏は黒21と打ち、以下左辺で巧みに勝ちを出している。稲妻が打たれてから、どうも急所がこの21に変わったようである。つまり、この21が新しい「へそ」になったという訳である。ところが、稲妻だけでは次の黒13、15は満局定石である。ここでも、黒15の

位置が急所となっている。この15は右と左をつなぐ



ためにいい位置にあるのであろう。実際、上にも下にも筋を利かせている。

と書いているうちに、名人位決定戦でもこの手が現れた。第2局である。岡部君の黒番だったが、この手が有力と見ていたのだから、結局タイミングが早くうまく行かなかったが、彼もまたこの地点に注目していたのは間違いない。剣先を叩くのが以前は常識だったが、それよりもこの手の方が白の剣先をけん制しながら筋をつなげられるということ



で、その効果に皆が気づいたのだろう。

一方の白も、左のように早めにへその位置に占める手が良い手となっている。今後はへそをめぐる攻防が一段と激しくなるだろう。

